

群集墳研究の新視角

—群集墳からみた古墳時代の社会・集団—

古代学研究会編

2021年11月 六一書房発行 B5判 並装カバー 本文368頁

【本書の内容】

畿内地域を中心に、小支群の様相、それらの集合体としての群集墳の様相を明らかにし、そこから古墳時代の家族・集団がいかにみえるのかを検討する。支群形成、追葬、埋葬施設、副葬品組成、須恵器の副葬、古墳の終焉、横穴墓や集落との比較検討など、様々な分析視角から検討した最新の研究成果を収録する。

古代学研究会2018年度拡大例会シンポジウムをもとにした成果報告書。

定価4,950円（税込・送料別）のところ

会員特別価格：4,500円（税込・送料別）

購入の申し込み・各種お問い合わせ先：古代学研究会

E-mail: kodaigakukenkuyukaireikai@yahoo.co.jp

*送料は1冊ご購入の場合400円、複数冊ご購入の場合宅配便での料金となります。

目次

第Ⅰ部 拡大例会シンポジウム記録集

〈趣旨説明〉

開催趣旨—群集墳研究と古代学研究会— 絹島 歩

〈報告〉

古墳時代の家族・集団と群集墳 太田宏明

初期群集墳における造墓集団とその体制 山田 暁

横穴式石室からみた群集墳の集団原理

—近江・畿内地域を中心に— 藤村 翔

器種構成からみた群集墳の須恵器副葬について

—大和・河内地域のいくつかの群集墳の事例から— 岩越陽平

副葬品からみた群集墳被葬者の職能と階層

—畿内地域を中心として— 絹島 歩

横穴墓の造営過程からみた被葬者集団

—近畿地方中部を中心に— 岩橋由季

群集墳の終焉について 小田裕樹

集落遺跡と群集墳—大和地域を中心に— 鈴木一議

〈シンポジウムの記録〉

「群集墳研究の新視角」討論 作成：絹島 歩

第Ⅱ部 各地域における群集墳の分析

畿内地域の群集墳 太田宏明

近畿の群集墳1—播磨地域— 奥田智子

近畿の群集墳2—紀伊地域— 萩野谷正宏

東海地域の群集墳—遠江・駿河・伊豆を中心に— 菊池吉修・田村隆太郎

第Ⅲ部 総括と展望・提言

総括 絹島 歩・太田宏明

群集墳展開の教条的な原理の打開と多様性 森岡秀人

『群集墳研究の新視角』に寄せて 森本 徹

後記 絹島 歩

